

牧野記念庭園

博士が愛した植物園へようこそ



牧野記念庭園は東京都指定文化財(名勝および史跡)です。

牧野記念庭園とは

本園は、植物学者牧野富太郎博士が大正15年から亡くなるまでの30余年を過ごした住居と庭の跡地です。博士は、もともと広がっていた武蔵野の雑木林の中に、採集してきたり知人から取り寄せたりした植物を植え、庭を「我が植物園」として大切に育ててきました。そして、たびたび庭に座り込んで、植物の観察や採集をして、庭とともにある晩年を過ごしていました。博士がこよなく愛した地を一般に公開し、博士の偉業を末永く後世に伝えるため、昭和33年に庭園として開園しました。

園内には、スエコザサ、サクラ^{せんがいや}、ヘラノキなど博士にゆかりの深い植物を含め300種類以上の植物が生育するほか、博士の使っていた書屋が残り、博士の在りし日の面影を今に伝えています。

牧野富太郎博士〈略歴〉



Dr. Tomitaro Makino
1862-1957

文久2 (1862)年	4月24日 土佐国高岡郡佐川村(現佐川町)に生まれる
明治17 (1884)年	上京し、東京大学理学部植物学教室へ出入りする
明治22 (1889)年	日本で初めて新種ヤマトグサに学名をつけ発表する
明治26 (1893)年	帝国大学理学部助手となる
明治33 (1900)年	「大日本植物志」第一巻第一集刊行
明治45 (1912)年	東京帝国大学理学部講師となる
大正5 (1916)年	「植物研究雑誌」を自費創刊
大正15 (1926)年	東京府北豊島郡大泉村上土支田557に居を構える(現在の練馬区立牧野記念庭園)
昭和2 (1927)年	理学博士の学位を受ける
昭和3 (1928)年	壽衛夫人永眠、スエコザサを命名
昭和12 (1937)年	朝日文化賞を受ける
昭和14 (1939)年	東京帝国大学理学部講師を勤続47年で辞任
昭和15 (1940)年	「牧野日本植物図鑑」刊行
昭和26 (1951)年	第一回文化功労者となる
昭和28 (1953)年	東京都名誉都民となる
昭和32 (1957)年	満94歳 永眠 没後従三位勲二等旭日重光章および文化勲章が授与される



植物学教室の助手室で



壽衛夫人と



庭にて仲間たちと

練馬区立 牧野記念庭園



- 所在地 練馬区東大泉6-34-4
 - 面積 2,576.22㎡
 - 開園 昭和33(1958)年12月1日
 - リニューアルオープン 平成22(2010)年8月1日
 - 入園料 無料
 - 開園時間 午前9時～午後5時
 - 休園日 毎週火曜日(火曜日が祝日にあたる場合は、その直後の祝日でない日)、年末年始(12月29日～1月3日)
 - 電話番号 03-6904-6403
- ※障害者用駐車場(1台)があります(事前にご予約ください)
(令和5(2023)年6月)

ウェブサイトはこちら▼



交通案内

- 西武池袋線:大泉学園駅下車(南口)徒歩5分
- JR中央線、西武新宿線からバスで「学芸大附前」下車、徒歩3分

主なバス経路

- 荻窪駅/上井草駅から、西武バス「長久保行」
- 西武窪駅/上石神井駅から、西武バス、関東バス「大泉学園駅南口行」
- 吉祥寺駅/武蔵関駅から、西武バス「新座栄行」「都民農園セコニック行」他



表紙: 開園とスエコザサ、剪定ばさみ

Makino Memorial Garden & Museum

園内で牧野富太郎博士について知る



正門

生涯に発見・命名した植物は1500種類以上にのぼり、日本の植物分類学の基礎を築いた博士。

園内には、博士が使っていた書屋や博士の生涯を紹介した展示室などがあり、博士の業績を知ることができます。

※建物の位置を示す地図は内側面にあります。

記念館

記念館は、博士の遺品や関連資料を展示する施設で、博士が亡くなるまで暮らしていた邸宅の跡地に建てられました。現在の建物は、内藤廣氏の設計による2代目の記念館で、平成22年8月にリニューアルオープンしました。



書齋にて



印鑑
(巻いている「の」で「まきの」を表す)

顕微鏡



昭和12年庭にて

書屋展示室

鞘室に守られた内部に、博士の書齋と書庫の一部が保存されています。そこは長らく蔵書や愛用する文具のないがらんとした空間でしたが、令和5年春に「博士の研究への情熱の詰まった空間」として再現された書屋が公開されました。博士は晩年、庭で植物の観察を行い、この書齋で著書の執筆や植物の描画などに勤めました。当時を伝えるこれらの建物では、植物と歩んだ博士の在りし日が偲べれます。



講習室

講習室では、企画展関連の講演会やポタニカルアート講座、夏休みなどの時期にあわせた標本製作や缶バッジ作りなど子ども大人も参加できるイベントを開催しています。また、室内にモニターが置かれ、博士の生涯や功績についての映像を見ることができます。



ポタニカルアート講座



常設展示室

館内の常設展示室では、解説パネル、博士愛用の採集道具や描画道具、博士の執筆した書物や描いた植物図などが展示されています。それらの見学により植物研究に一生を捧げた博士の姿をたどることができます。



企画展示室

館内の企画展示室では、年に3~4回、博士や植物に関する展示が行われます。平成24年には博士生誕150年の特別展を、平成28年には大泉転居90年の企画展を開催しました。博士の功績とともに、博士にならぬ植物のおもしろさや植物を学ぶ楽しさを伝えていきます。

牧野富太郎博士ゆかりの植物を楽しむ

牧野記念庭園に一步足を踏み入れれば、周囲の喧騒は薄れ、今も博士が座り込んで植物を観察しているような穏やかな時間が流れています。園内には、ねりまの名木に指定されているヘラノキやサクラ^{せんだいや}‘仙台屋’のように博士が全国各地から集めた植物と、コナラ、エゴノキといった武蔵野の雑木林の面影を残す植物が生育しています。ここでは時が経つのを忘れて博士が植物を見つめていたように、ゆっくりと植物と向かい合って、植物の姿かたちや季節の移り変わりをお楽しみください。



番号が一番多く生育している場所を示しています

博士命名の植物
一般的に使われていない学名や記載が見当たらない植物を含みます。

ねりまの名木
緑馬区内にある緑馬を象徴するような大木や古木などを指定したものです。

科名は『新分類 牧野日本植物図鑑』を参照し、栽培品種名は「種名『栽培品種名』」とし、種名が明らかでない種類については、総称をあてている。



① スエゴザサ (イネ科)

アズマザサの変種で牧野博士が昭和2年に仙台で発見した。妻・壽衛への感謝と愛情をこめて、「Sasa Suwekoana Makino」と命名し、スエゴザサという和名を与えた。博士は風が吹くとさやさと懐かしい音をさせるササに、妻の姿を重ねたようである。園内では博士の胸像や顕彰碑・歌碑の周辺に生育している。



② ヒメアジサイ (アジサイ科)

博士が戸隠の山麓で見つけ、その名をつけた。博士は自宅の庭に植え愛でていたが、一度庭園では絶えてしまった。博士の次女・鶴代氏が高知県立牧野植物園に贈ったものが系統保存され、令和4年に博士生誕160年を記念し里帰した。



③ オオキツネノカミソリ (ヒガンバナ科)

関東以西の山地に生える多年性草本。牧野博士がキツネノカミソリとの違いを見出し、花がより大きく、雄しべが花被片より長く突き出る特徴をもつ。花の様子を庭で描いたスケッチが残されている。



④ ヘラノキ (アオイ科)

本州近畿以西、四国、九州の山地に点々と分布し、牧野博士が命名した落葉高木。牧野博士が九州の知人から苗を取り寄せて植えている。秋にはへら状の総苞葉が風を受け、遠くへ飛ぶ様子が見られる。



⑤ タマノカンアオイ (ウマノスズクサ科)

関東地方多摩川附近の丘陵に特産する多年生草本。春、光沢のある葉の下を覗いてみると、土に半分埋もれるかのように咲く花を見つけることができる。牧野博士が発見し命名した植物。



⑥ ニシキマンサク (マンサク科)

日本海側などの多雪地に分布するマルバマンサクの一品種で、花びらの基部が紅色になる。博士が命名していて、『牧野日本植物図鑑』の初版の口絵で「頗る異彩あることこの図上に見るが如し」と紹介している。



⑦ ウバユリ (ユリ科)

和名は花期には葉が枯れてなくなることから歯がない姥に見立てつけられている。一般的なユリは葉が細く平行脈だが、ウバユリは網状脈の大きな葉をもつ。牧野博士が属を改めた命名植物。



⑧ シロヤマブキ (バラ科)

和名はヤマブキに似て、かつ白い花をつけることによるが、ヤマブキは葉が互生し花びらが5枚なのに対し、シロヤマブキは葉が対生し花びらが4枚である。牧野博士が文献を整理して正しく記載しなおした命名植物。



⑨ カタクリ (ユリ科)

落葉樹の葉が開く前の早春に、葉を出して花を咲かせる。鱗茎から良質のでんぷんがとれ、これが真正の片栗粉。博士が暮らした当時は近隣にも生育していたが、現在都内で見られるのは珍しい。



⑩ ユキワリイチゲ (キンポウゲ科)

本州の近畿地方以西、四国、九州の山麓の樹林内などに生える多年草。葉は秋に地上に出て冬を越す。早春の頃、淡紅紫色の花をつけ日が当たると開く。牧野博士が郷里の佐川町から持ち帰り植えている。



⑪ ウメ ‘緑萼梅’ (バラ科)

一般的なウメは紅褐色のがくであるのに対して、緑色のがくをもつ。前年の枝は緑色で光沢があり、花はその枝に1~3個つく。庭園のものは雄しべの一部が白色の花びらになる八重咲の品種。牧野博士の命名植物。



⑫ シロバナマンジュシャゲ (ヒガンバナ科)

ヒガンバナとショウキズイセンの雑種とされる。九州の知人から鱗茎を得て植えている。ヒガンバナと同時期に咲き、博士は「混植しておく」と紅白相映して頗る美しい」と愛でていた。



⑬ ヒイラギ ‘ヒトツバヒイラギ’ (モクセイ科)

ヒイラギの葉の特徴である大形の鋸歯とその先の鋭い刺がない変種。石神井で栽培されていたものを譲り受けたもの。花のない時期には何であるかわかりにくく、博士が植えた頃はもとより現在でも珍しい木といえる。



⑭ キンモクセイ (モクセイ科)

花は橙色で芳香があり、庭樹として広く植えられるが、日本では雌株は見られず雄株のみが見られる。植えられている位置はちょうど住居の玄関前にあたる。牧野博士がキンモクセイの変種として記載した命名植物。



桜1 カンザクラ ‘大寒桜’

3月上旬~下旬



桜2 ヤマザクラ

4月上旬~中旬



桜3 サトザクラ ‘福祿寿’

4月上旬~下旬



桜4 サクラ ‘仙台屋’ (バラ科)

高知市内の仙台屋という店の前にあった品種で、博士が名づけたといわれる。高知県の知人から苗を送ってもらい植えたもので、昭和50年に現在の位置に移植された。花は淡紅紫色で、先端とふちはやや色が濃くなる。博士が好きだった桜は、他にも様々な種類が園内に生育している。

3月下旬~4月上旬



桜5 サクラ ‘染井吉野’

3月下旬~4月上旬



桜6 ヤマザクラ ‘稚木の桜’

4月上旬~中旬



桜7 カンヒザクラ

2月下旬~3月中旬



桜8 イヌザクラ

4月下旬



桜9 オオシマザクラ ‘薄重大島’

4月上旬~中旬



桜10 エソノウワミズザクラ

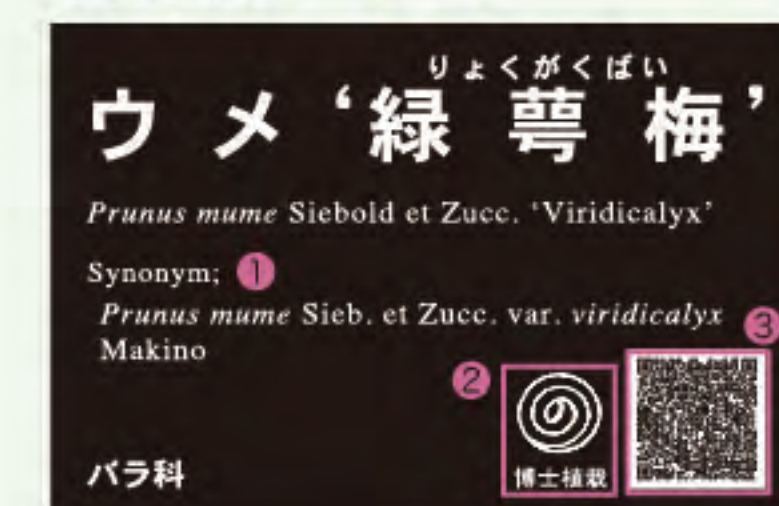
3月下旬~4月上旬

花ごよみ

その年の天候により花期は前後するため、詳しくはお電話にてお問い合わせください。

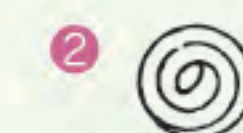
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
⑩ ユキワリイチゲ												2月上旬~3月下旬
⑪ ウメ ‘緑萼梅’												2月中旬~3月上旬
⑥ ニシキマンサク												2月中旬~3月中旬
⑤ タマノカンアオイ												3月下旬~4月下旬
⑨ カタクリ												3月下旬~4月上旬
⑧ シロヤマブキ												4月上旬~5月上旬
② ヒメアジサイ												6月上旬~下旬
④ ヘラノキ												7月上旬~中旬
⑦ ウバユリ												7月中旬~下旬
③ オオキツネノカミソリ												7月中旬~8月下旬
⑫ シロバナマンジュシャゲ												9月中旬
⑭ キンモクセイ												9月下旬~10月中旬
⑬ ヒイラギ ‘ヒトツバヒイラギ’												11月下旬~12月中旬

樹名板について



① Synonym (シノニム)

その種につけられた異名で、牧野博士が命名した学名を掲載



牧野博士が植栽したとされる樹木

② 二次元コード

植物の詳しい解説情報や写真を見ることができます